

自費出版ニュース

新年号

株式会社 北斗プリント社
HOKUTO PRINT CO.,LTD.
TOTAL PLANNER - FROM DESIGN TO PUBLISHING



〒606-8540

京都市左京区下鴨高木町 38-2

TEL075-791-6125 FAX075-791-7290

URL <http://www.hokuto-p.co.jp>

明けましておめでとうございます

みなさまがたにおかれましては、ご機嫌麗しく新年をお迎えのことと存じます。旧年中は格別のご高配にあずかりまして有難うございました。本年も相変りませず、ご愛顧のほどお願い申し上げます。

さて、平成二十一年は前年のリーマンショックの影響で日本では円高、株安、デフレスパイラルと明るい話題に乏しい一年でありました。米国、日本では政権が交替しましたのも閉塞感が漂う中、「変化」「新」を期待する国民の声がしからしめたのではないのでしょうか。

翻って自費出版業界を振り返ってみますと一昨年、最大手の新風舎が強引な商法で業容の拡大を図って来ましたが、顧客の反撥を買って破綻、業界全体を揺るがす出来事になったことは記憶に新しいことでしょう。

小社は創業以来五十五年、自費出版部門に於きましても、「北斗の針」たるべく精進して参りました。社史・自分史・地域誌・句集・歌集・随筆集・写真集など数百点の作品を世に送り出し、高い評価を受けて来たと自負しております。

本年もお客様と一緒に本を造る喜びを共有し合える時を持ちたいと考えております。

最後になりましたが、みなさまがたのご多幸を祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成二十二年一月

株式会社 北斗プリント社
代表取締役 谷川 聡

「声なき声」さんざめく

河田 茂

子や孫にだけ、そっと書き遺しておこう——そのくらいの気持ちで書きだした自分史である。犬も歩けば——この八十老犬、執筆決意早々、棒につまずいた。咳が止まらない。CTとPETで胸部撮影したら肺癌だという。手術して一カ月半入院、自宅療養に入った。傷跡は痛む。息は上がる。再発はさせないつもりだが残り寿命は知れてきた。

焦る。自分史を早く仕上げねば幻になる。頑張った。時には朝鳥の声を聞いて、慌てて寝た。病み上がりの身にはこたえた。ドクターストップがかかる。女房には怒られる。「ハイ」「ハイ」「ハイ」素直な老人である。早寝する。トイレの中にノートとペンを常備した。閃きやエスプリ?そんなものはもうない。もの忘れ防止のチョイ書き用である。結構役に立った。亡びゆく者の悲しい努力だった。本が出来た。「ヤッター!」私のクローンと対面する思いだ。孫に遺すだけではもったいない。お世話になった方々に近況報告かたがたお送りしようか。いや、やめた方がいい。皆さん、それぞれにご多忙真っ最中。読みたい本も読めずにいる



2009年(平成21年)11月29日(日曜日) 中国新聞

のに、こんな本ごときで時間を潰させるのは非礼、傲慢、無神経。でも迷うんだなあ。目をつぶり、百人の方に出版社から送って頂いた。やーれやれ、これで窮々自適のご隠居さんにやっとなれたぞ。たまげた。翌々日から電話、手紙が殺到しだした。医者へ行ってる午前中に八本の留守電が入っている。以後、波状的に手紙・はがきが五十四通、電話は無数。皆さんの生真面目さ、丁寧さ、大変な労力にすっかり慌てふためいた。ジンときた。嬉しかった。

「四十年前の新聞とは思えない。今の老人社会にそのまま通用する」その先見

の明たるや……贈呈書の感想文のなんと難しさ。ごめんなさい。「直木賞より面白かった」うーん。「正体を見いだし敷居が高くなった」私の正体は茅屋の枯尾花? 「三人の孫に読ませるつもり」は八十四歳のおじいさん。改めて読み直す。文法間違い、舌足らず、省略し過ぎて主語不明。こんな本を三回も読んで下さって申し訳なし、恐縮至極。

「声なき声」が四十年ぶりに騒ぎでした。メールやブログの中でまで。この本に登場して下さった方々のほとんどはもう鬼籍に入っておられる。その彼岸に向かって私は何と叫ぼうか。「核もー格差もー マアダダヨー」彼岸からのこだまは「モウ イイヨ」かもしれない。

A5判・並製・カバー装 三三四頁

定価 一、五〇〇+税



『7days in Boston』

—京都・ボストン姉妹都市—

提携50周年記念出版—

上村 喜央 著

題名から分かる通り、著者は平成二十一年八月二十四日(月)から三十日(日)まで、京都市・ボストン市姉妹都市五十周年記念のボストン訪問京都市代表団の一員として参加、門川京都市長、繁京都市会議長に同行してボストン市を訪問した。本書はその報告を兼ねた記念出版である。

ボストン市はマサチューセッツ州の州都で人口は五十万人ほどであるが、周辺にはハーバード大学をはじめ大学が多く、京都の姉妹都市たるにふさわしい町である。昭和三十四年(一九五九)、当時の高山市長が同市を訪れ、姉妹提携を結び本年で五十周年を迎えた。

本書はカラー写真十六点、モノクロ六十七点を収載し、甚だビジュアルな体裁になっいて、親しみ易い内容に仕上がっている。判型もA5判とハンディで恰好のボストン案内記をかねている。

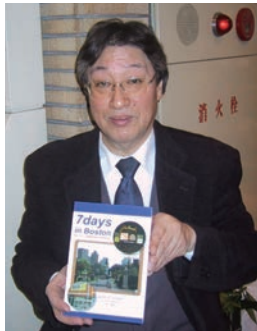
目次から一部を抜くと、

- 2. ボストンのダウンタウン
- 4. ボストン美術館表敬訪問
- 10. ボストンレッドソックスの本拠地で野球観戦

- 11. ハーバード大学表敬訪問
- 13. ボストン市内を散歩して
- 15. ストリートミュージシャン

と、ヴァリエティに富んでおり読んでいて飽きがこない。

筆者は代表団としての公式行事をこなすほか、持ち前の語学力と貪欲なまでの好奇心を発揮して草の根レベルでの交流も行なっている。ハイライトはO・ヘンリーの『二十年後』ならぬ「三十年後の御対面」である。約三十年前に筆者は趣味で蒐集した東北伝説こけし約四十五点をボストン子供博物館へ京都ボストン友



著者サイン会(21年12月19日 於:平安会館)

好の「証し」として寄贈しており、今回の訪問で再会を果たしたのである。

話は横道にそれるが、本年十二月二日、在大阪フランス総領事館が京都へ移転して来た。

筆者は京都産業大学を卒業後、パリ大学へ二年間留学し国際法を専攻すると同時にフランス語も自家来籠中のものとするなどフランス通である。パリとの由縁も深い京都生まれの生粋の京都人の著者の幅広い人脈を駆使した今後の活躍が期待される。

(評) S・H

著者紹介

上村 喜央(うえむら よしお)
作家・イベントプロデューサー
京都ボストン交流の会会員
NPO自費出版ネットワーク賛助会員
京ぶどう「聚楽」研究者

A5判・並製 五一頁

定価 一、九〇〇+税



秋の叙勲を受けて

安光 進

この度、平成二十一年秋の叙勲に際し
 図らずも危険業務従事者功労により「瑞
 宝双光章」拝受の栄に浴しました。

十月初め、新聞発表されてから以降、
 自民党議員を初め、友人、知人、叙勲関
 係業者、等からの祝意で毎日が忙しい一
 日でした。

伝達式は拝謁の二日前、京都府警察本
 部で本部長より勲記、勲章を受けました。

拝謁行事は十一月九日、皇居豊明殿に
 おいて行われました。

受賞者は、全国の叙勲対象警察官の半
 分、残りの者半分は翌日とのことでした、
 豊明殿では、我々、家内らを含め約
 六〇〇人、男性は六列に並び、女性は後
 列、約十メートル空けて同じく六列に並
 んで陛下の入殿、登壇を待ちました、式
 は、始めに受賞者代表のお礼のご挨拶が
 あり、その後、陛下が受賞者に対して労
 いと激励のお言葉がありました。

その後、陛下は我々の列の前を笑顔で
 静かに歩かれて、お言葉をかけていただ
 く者、幸いにも私の家内は車椅子の中
 いたため「お大事ね」と声をかけていた
 だいたのが私にも聞こえました。その後

男性列の背面（女性列の前）を歩かれ、
 その後入り口の所で我々全員に会釈され
 てから姿を消された。この間約十分間位
 であったが豪華な宮殿の中での拝謁は、
 荘厳そのもの。列席者全員が感動するに
 十分な雰囲気でありました。

その後、中庭沿いの回廊を歩き千鳥の
 間で記念写真を撮って頂いた。バスで帰
 る途中、天皇陛下より皇室ご一家のアル
 バム一冊と菊の御紋入りの銘菓が全員に
 下賜されて再び感激、乾御門よりホテル
 に向かいました。

今日の在るのも、元気で居てくれる家
 内のお陰と感謝、感激の気持ちで一杯で
 す。この気持ちを忘れずに自らも元気で
 残された一日一日を、この栄に恥じない
 人生を送りたいと願うところでありま
 す。

安光 進氏略歴

昭和11年7月5日	京都市に生まれる
18年4月6日	第四錦林国民学校入学
31年4月6日	立命館大学Ⅱ部入学
35年10月1日	警察官拝命
53年3月6日	警部昇任
平成元年3月20日	警視昇任
7年4月2日	退職（警視正昇任）
15年11月6日	自伝『京のいごっそう』を 北斗書房から出版

編集後記

平成 21 年の世相を表すひと文字は「新」でした。だからという訳ではありませんが、『自費出版ニュース』も今回号より装いを少し変えました。「新」年を迎え「新」装開店といったところでしょうか。

編集体制も「新」体制となりまして、このたび初めてお送りします。なにかと「新」がもてはやされる昨今ですが、皆様に愛される紙面づくりをしようという心構えに変わりはありません。

これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

編集責任者 相生 隆久

第 13 回 2010 年 日本自費出版文化賞 作品募集

募集部門

- | | |
|------------|-----------|
| ①地域文化部門 | ②個人誌部門 |
| ③小説・エッセイ部門 | ④詩歌部門 |
| ⑤研究・評論部門 | ⑥グラフィック部門 |

受付期間

2009年10月1日～2010年3月31日(当日消印有効)

申し込み先

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16

NPO 法人 日本自費出版ネットワーク

TEL : 03-5623-5411 FAX : 03-5623-5473